

病理診断科における研修の目標、方略(方法)及び評価

1 独自の研修目標・目的

臨床的技能の向上を目指し、臨床診断・治療の中で病理診断業務の役割を認識するために、病理診断業務全般を経験し、また、臨床病理検討会に参加し、受け持った剖検症例のCPCLレポートを作成し、病理診断業務の基礎的知識・手技を修得する。

2 病理診断科研修の特徴

常勤病理医複数体制が確立したので、病理医の仕事全般を見学・体験してもらうことが可能である。多岐にわたる症例を経験することが出来るが、特に甲状腺疾患・乳腺疾患を数多く経験できる。診療体制の中で無理のない臨床病理検討会を数多く開催しているので、検討会の意義を理解することが出来る。

3 研修の目標・目的達成のための方略・方法

切り出し、病理標本作製を実体験し、基礎的病理診断を実践する。興味ある分野における症例は臨床経過・画像・病理診断結果を対比し、最終診断までの過程を学習する。病理解剖に遭遇した場合は執刀も経験する。定期的に行われている臨床病理検討会で取り上げる症例を事前に学習する。研修中に詳細なCPCLレポートを作成する。

4 目標達成の評価

研修態度、病理標本作製過程の理解度を観察し、簡単な症例の病理診断ができるかを評価する。また、症例呈示能力やCPCLレポートで最終評価する。

5 検査

病理一般における検査は体験することが出来る。標本作成をして、各種染色、特殊染色の一部を実習する。

6 カンファランス

各科と定期的にカンファランスを行っている。特に剖検例は全例検討会を行い、主治医に納得いく剖検結果を提示している。定期的に行われる検討会は剖検例検討会、外科・病理検討会、乳癌画像検討会、消化器癌内視鏡検討会、消化器(肝・胆・膵)検討会、婦人科・放射線科・病理検討会、耳鼻いんこう科・放射線科・病理検討会、泌尿器・病理検討会で、症例によっては他科との検討会も行う。

7 週間スケジュール

	午前	午後	夕方
月	検鏡	切り出し	最終月曜 検討会
火	検鏡	検鏡	検討会
水	切り出し	検鏡	外部検討会(随時)
木	検鏡	検鏡	第二木曜日 検討会
金	切り出し	検鏡	外部検討会(随時)

8 研究活動等

症例報告を中心とした研究・学会活動に積極的に参加する。他科の学会発表において、病理組織所見を随時指導している。